

上十三薬剤師会研修会開催報告

広報・情報委員会 宇井 靖

本年度に入り、新型コロナウイルスも5類感染症としての位置づけに移行され、薬剤師会においても、従来の研修会が再開されるようになりました。ここ上十三支部でも同様に、会員の皆様の日々の業務に生かすことができるよう、研修会が開催されましたのでご報告させていただきます。

去る令和5年6月28日(水)、十和田市民文化センターにて第二回上十三薬剤師会研修会が開催されました。当日の講演は、十和田市立中央病院メンタルヘルス科 徳満 敬大 先生にご登壇頂き、「日本人男女の周産期うつ病の有病割合および相対危険度」と題し、周産期うつ病の病態と、過去の文献からのメタアナリシスにより、周産期うつ病の罹患割合や現状、その課題についてご講演頂きました。

ご講演の先生のお話で個人的に驚いたことが、周産期うつ病というと女性の病というイメージですが、実はパートナーである男性も罹患している割合が高いという点でした。このことより周産期うつ病に対しての薬剤師の視点として、女性だけでなく、男性にも目を向けていくことが必要である点について知ることができました。

本講演は会場とWebによる配信で執り行われ、多くの先生方にご参加頂きました。今後も薬剤師としての最新の知識を身に着ける場として、多くの会員の先生方にご参加頂き、この研修会を普段からの薬剤師活動に生かして頂ければと思います。

